

8.

文献収集と公開・史料 電子化・ウェブ発信

- 1) 文献・資料の収集と公開
- 2) IGS 史料電子化プロジェクト
- 3) ウェブサイトでの情報発信

1) 文献・資料の収集と公開

ジェンダー研究の知の基盤の一層の充実を図る

ジェンダー研究所は、1975年創立の「女性文化資料館」時代から今日に至るまで40年以上にわたり、女性学・ジェンダー研究の文献・資料の収集を絶え間なく続けてきた。女性に関する膨大な知の集積ともいえる蔵書は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外からOPAC（Online Public Access Catalog）で検索でき、手続きを経れば学外の者も利用可能である。

2019年度も、寄贈・購入により、多数の文献・資料を収集することができた（新規収蔵図書・資料の詳細は本報告書巻末資料172～174頁参照）。今年度はとくに書架の整備に注力し、日本十進分類法による見出し板の設置を行なった。とくに蔵書数の多い社会（360番台）、教育（370番台）などは下位分類まで表示し、主題による探索の助けになるよう配慮した。また、雑誌書架ではOPAC未登録で配架されている資料が複数見つかった。入手の経緯や他館での所蔵状況などを調査し、貴重な資料については整備をしたうえで、OPACへの登録を進めている。

■附属図書館専用書架での蔵書貸出・閲覧

ジェンダー研究所収蔵文献（書籍約25,000冊、雑誌約340種）は、お茶の水女子大学附属図書館の専門コーナーに配架され、学内外の学生や研究者に利用されている。

《図書館利用案内》

○開館日

- ・月～金 8:45～21:00（授業のない日は17:00まで）
- ・土 9:00～17:00（夏・冬・春期休業期間中は閉館）
- ・日 12:00～17:00

（毎週ではありません。図書館カレンダーでご確認ください）

○閉館日

- ・日曜日、国民の祝日、年末年始、大学夏季一斉休業日
- ・夏・冬・春期休業期間中の土曜日
- ・蔵書点検、
- ・徽音祭当日、創立記念日、入学試験日当日、卒業式

■蔵書・研究者に関する情報提供

附属図書館収蔵文献・資料のほかに、ジェンダー研究所内にて、購入雑誌・寄贈雑誌の最新号、研究所の過去の成果刊行物、事業の記録、所属研究者執筆の書籍のほか、全国のジェンダー研究施設や男女共同参画団体の定期刊行物を閲覧することができる。

資料閲覧対応のほか、研究者及びジェンダーに関心を持つ方々に、これらの文献や資料、研究所に蓄積された知識を広く活用してもらうため、メールや電話による外部からの問い合わせ、訪問依頼にも随時対応している。



■お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでの資料公開

<http://archives.cf.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学デジタルアーカイブズでは、本学を卒業し、女性の先駆的研究者として活躍した保井コノ、黒田チカ、湯浅年子、辻村みちよの研究業績をまとめた資料目録などが公開されている。

これらの資料は、女性文化資料館時代の 1981 年の文部省特定研究「女性高等教育とその成果に関する総合的研究」における 2 つのプロジェクト、「III 婦人研究者の活動状況に関する調査研究—自然科学分野を中心に—」「IV 女性文化に関する文献・資料の収集及び調査研究」の中で、それぞれのご遺族の協力を得て収集した遺品のうち、研究関連のものを整理し、長い時間をかけて目録化したものである。

目録化は本研究所の前身機関のプロジェクト成果であるが、これを大学の歴史資産として広く公開するよう、2007～2009 年にデジタルアーカイブズ化された。現在、資料現物は理学部内に設置された「女性科学者資料室」で保管され、本学図書・情報課 情報基盤担当が窓口となって資料閲覧や貸出等の依頼に応じている。



2) IGS 史料電子化プロジェクト

■2019 年度成果概要

ジェンダー研究所は 2017 年度に、「IGS 史料電子化プロジェクト」を始動した。ジェンダー研究所の前身であるジェンダー研究センター（1996 年設立）、女性文化研究センター（1986 年設立）、女性文化資料館（1975 年設立）において、先人たちが開催してきた様々な研究会やセミナー、国際シンポジウムの史料を電子化し、デジタルアーカイブのかたちで後世に残すことで、ジェンダー研究のさらなる発展に寄与することを目指すプロジェクトである。

3 年目を迎えた 2019 年度も、昨年度に引き続きカセットテープの音声データの電子化、実施イベント記録一覧の整備などを進めた。実施イベントは、女性文化資料館（1975-1985）時代と女性文化研究センター（1986-1995）時代だけでも 170 件余りにのぼる。登壇者やゲストの多くは後にジェンダー研究の重鎮となる方々であり、そのテーマは学際的・国際的で、今日においてさえ褪せることのない先進性を誇っている。来年度（2020 年度）以降は、更なる電子化作業と並行し、具体的なアーカイブ構築に向けて、メタデータ、メタデータスキーマの検討を進め、既存の変換済み電子データ群をこれらに添って整理していくこと計画している。

電子化作業中の女性文化資料館（1975～1985 年度）、女性文化研究センター（1986～1995 年度）時代の実施イベント一覧と詳細は、本報告書巻末資料 175～179 頁を参照いただきたい。

3) ウェブサイト等での情報発信

英語での発信の強化

ウェブサイトでは、研究所基本情報や事業内容、研究プロジェクト、シンポジウムやセミナーの開催案内とその実施報告、刊行物のオンライン公開といった総合的な情報発信を日英言語で進めているが、日本語発信が先行し英語発信が遅れがちとなっていた。2019年度は、日英の発信が時差なくできるよう、またイベント開催後に間を置かず報告の発信ができるよう、記事掲載のワークフローと作業分担の見直しを行った。前年度に作成作業を進めた『ジェンダー研究』の特設サイトが公開になり、23号の投稿論文の募集は同サイトからのオンライン投稿が導入されるなど、IT時代に即した学術誌編集が可能になった。研究所サイトのデザイン改訂の作業も進められており、より充実した成果発信の努力を継続する。

■日本語ウェブサイト <http://www2.igs.ocha.ac.jp/>



■英語ウェブサイト <http://www2.igs.ocha.ac.jp/en/>



○新設『ジェンダー研究』ウェブサイト



投稿規定・執筆要項
オンライン投稿
(日本語サイト)